



DL16SE • DL32SE

DIGITAL RACK MIXERS

## OWNER'S MANUAL

# オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0

## はじめに

DL16SE \ DL32SEをご購入いただき、誠にありがとうございます。

ハードウェアに関するサポートが必要か、ソフトウェアに関するサポートが必要かを選んで、それぞれのマニュアルをご覧ください。

本マニュアルではハードウェア面について説明しています。ソフトウェアは常に進化していますので最新の情報を確認ください。

そのため、リファレンスガイドやファームウェアなどは頻繁に更新されます。

本マニュアルについてご質問やご意見がございましたら、販売店、正規代理店までお問い合わせください。

## 安全上の注意

- ・ この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- ・ 本書は必要ときに見返せるよう、大切に保管してください
- ・ 警告表示には必ず従って、正しくご使用ください
- ・ 水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- ・ 本機を液体のかかる場所に置かないでください。また操作や電源コードの取り扱いは濡れた手で行わないでください
- ・ お手入れは乾いた布で行ってください
- ・ 製品の通気口をふさがないでください
- ・ 電源を接続する前に、本製品の電圧仕様が使用する地域の電源電圧と一致しているのをご確認ください。適切に設置されたコンセントを使用してください。
- ・ 雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- ・ 意図しないトラブルが起こったときのために、電源プラグや電源スイッチを容易に操作できる状態にしておいてください
- ・ 本製品および電源コード、接続ケーブルを暖房器具やストーブなど、熱を発する機器の近くには設置しないでください。また裸火を近づけないでください
- ・ 本製品の近くで可燃性ガスを使用したスプレーなどを噴射しないでください。引火のおそれがあります
- ・ 本製品を移動するときは、電源ケーブル、接続ケーブル等をすべて抜いてから行ってください
- ・ 電源コードが踏まれたり、挟まれたりしないようにしてください
- ・ メーカーが指定した付属品・アクセサリーのみを使用してください
- ・ 安定した場所に設置し、スピーカースタンドを使用する場合は耐荷重や取り付け方法を確認してください
- ・ 修理や点検は、必ず専門の技術者にご依頼ください。以下のような場合には、製品の修理が必要です
  - ・ 液体をこぼした、異物が製品内部に入り込んだ
  - ・ 落下や踏みつけなどで、本体または電線コードやプラグ等が損傷した
  - ・ 雨や強い湿気にさらされた
  - ・ 正常に動作しない
- ・ テレビやラジオ、携帯電話の近くで使用するとノイズが発生する場合があります
- ・ 大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります
- ・ ファンタム電源は対応するコンデンサーマイクのみを使用してください。ファンタム電源スイッチを操作する際は、接続しているアンプをミュートしてください



### 注意

感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。  
修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

※本製品を廃棄する際は、地域で定められたルールに従って処分してください

## この取扱説明書の使い方



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。



より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。



特定の機能や操作について注意を喚起しています。

## 注意事項

大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります。耳鳴りや聴力の違和感を感じた場合は、ただちに使用を中止してください。

ミキサーの電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの順で電源を入れてください。同様に、電源を切る際はスピーカーを最初にオフにし、次にサブウーファー、最後にミキサーをオフにしてください。これにより、電源のオン・オフ時に発生するポップノイズや他の上流機器から発せられるノイズがスピーカーに出力されるのを防ぎます。

## DL16SEおよびDL32SEの側面パネルと背面パネル

各 DL16SE および DL32SE の側面パネルには、電源コネクタと電源スイッチが装備されています。ケンジントンロックは背面パネルにあります。

### 電源コネクタ

標準的な 3 ピン IEC 電源コネクタです。取り外し可能な電源コード（パッケージに含まれています）を電源コネクタに接続し、電源コードの他の端を AC コンセントに差し込んでください。



AC電源が、側面パネル（IECレセプタクルの下）に表示されているAC電源仕様と一致しているのを必ず確認してください。

警告：プラグのアースピンを外すのは危険です。

電源コードからピンを取り外したり、追加したりしないでください！

### 電源スイッチ

このロッカースwitchの左側を押すと、DL16SE /DL32SE の電源が入ります。ミキサーの電源を切るには、スイッチの右側を押します。



### ケンジントンロック

オプションのケンジントンロックを使用して、高いセキュリティを確保できます。ケンジントンロック用のセキュリティスロットを利用してミキサーを固定するためのケーブル装置はさまざまな種類があります。



ケンジントンケーブルとロックは一定のセキュリティを提供しますが、完全な防犯対策ではなく、確実な保護を保証するものではありません。



# DL16SE および DL32SE の フロントパネル



DL16SE および DL32SE ミキサーには、TRSフォン端子（および対応するノブ）、マルチチャンネルオーディオの入出力に対応したUSBインターフェーススロット、外部Ethernet接続用スロット、そして電源およびWi-FiのLEDが装備されています。

DL16SEには、8つのXLR入力端子、8つのコンボ入力端子、8つのXLR出力端子が搭載されています。

DL32SEには、16のXLR入力端子、16のコンボ入力端子、10のXLR出力端子が搭載されています。

## PHONES出力ノブ

このノブは、PHONES出力端子からの音量を調整するために使用します。最小（オフ）から最大ゲイン（MAX）まで調整可能です。PHONESノブはアナログ制御のため、リコール（設定の保存・呼び出し）には対応していません。



警告：標準的なヘッドホンをかなり大きな音でドライブできます。恒久的な難聴の原因になる可能性があります。音量には十分注意してください。

ヘッドホンを接続する前や、チャンネルをソロにする前、またはヘッドフォンの音量に影響を与える可能性のある操作を行う前には、必ずPHONESノブを最小まで下げてください。その後、音を聴きながら、ゆっくりと音量を上げてください。

## 電源LED

通常、このLEDはミキサーの電源が入って正常に動作している場合、緑色に点灯します。

ただし、このLEDには他にもいくつかの状態表示があります。すべてのパターンについて後述の表をご参照ください。

## ステータスLED

通常、このLEDはWi-Fiが正常に機能しており、タブレットやコンピュータとの接続が確立されている場合に緑色で点灯します。

ただし、このLEDにも他の状態表示があります。すべてのパターンについては、後述の表をご参照ください。

## アップデート / ネットワークリセットボタン

アップデート/ネットワークリセットボタンは、電源LEDとステータスLEDの間に配置されています。

DL16SE、DL32SE、および Master Fader アプリは、ソフトウェアやファームウェアの更新が必要な場合に通知してくれますが、このボタンを使えば必要に応じて完全なファームウェアアップデートを実行できます。

## ■ 強制アップデートの方法:

まずミキサーの電源を切ります。次に、細い金属棒(曲げたクリップなど)で強制アップデートボタンを押したまま、ミキサーの電源を入れます。すると、次にMaster Faderアプリを搭載したタブレットやコンピューターを起動した際に、アップデートを促すメッセージが表示されます。

## ■ ネットワークリセット:

このボタンを5秒間押してから離すと、ネットワーク設定が初期状態にリセットされます。現在の設定が不明な場合や、ミキサーがMaster Fader に認識されない、または接続できない場合に便利です。



アップデートを行う前には、現在のショーを必ずタブレットやコンピューターに保存してください。保存しないと、ショーデータを失う可能性があります。

強制アップデートボタン



## USBインターフェース

USBタイプBコネクタを使用すると、DL16SEでは16×16、DL32SEでは32×32のマルチチャンネル録音および再生が、USB 2.0経由で接続されたコンピューターに対して可能になります。DLミキサーは、USBオーディオクラス2.0に準拠したデバイスとして認識されます。

つまり、Macに接続するだけで追加のドライバーなしで自動的に動作します。

Windowsでは別途ドライバーのインストールが必要ですが、それはMackieのウェブサイトからダウンロードしてください

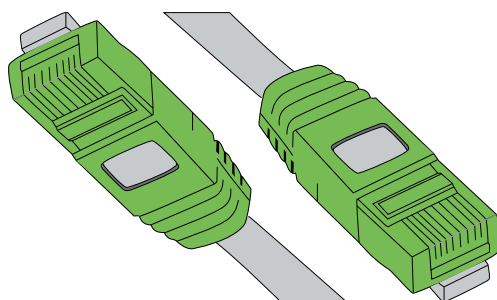
録音ソースおよび再生先として、任意のチャンネルまたは出力の組み合わせを選択できます。

## 外部機器コントロールコネクター

100Mbネットワークコネクターは、CAT5 Ethernetケーブルを介してミキサーと外部Wi-Fiルーターを接続し、ワイヤレスコントロールを可能にします。

CAT5 Ethernetケーブルの一方の端をミキサーのネットワークコネクター[Ext. Control]に接続し、もう一方の端をルーターのLANポートに接続してください。WANポートには接続しないでください。

ほとんどのルーターではストレート結線ケーブルとクロス結線ケーブルのどちらも使用できますが、選択できる場合は、どのルーターでも安定して動作するように、ストレート結線のCAT5 Ethernetケーブルを使用するのが最適です。



# 録音と再生

DL16SEまたはDL32SEにUSB Type Bコネクタを使用してコンピュータに接続し、録音および再生が可能になります。

macOSでは追加のドライバーは不要ですが、WindowsではMackie USBドライバーのインストールが必要です。

任意のチャンネルや出力の組み合わせを録音ソースや再生先として選択できます。

## 使用方法

DL16SEまたはDL32SEでは、DAWアプリケーションから、あるいはSpotify®、YouTube®などの他のアプリケーションからでも録音／再生が可能です。

PC (Win) ユーザー：Mackieのウェブサイトから最新のドライバーをインストールしてください。インストール手順はダウンロードに含まれています。ミキサーのUSBドライバー設定については、そのドキュメントに記載された手順に従ってください。

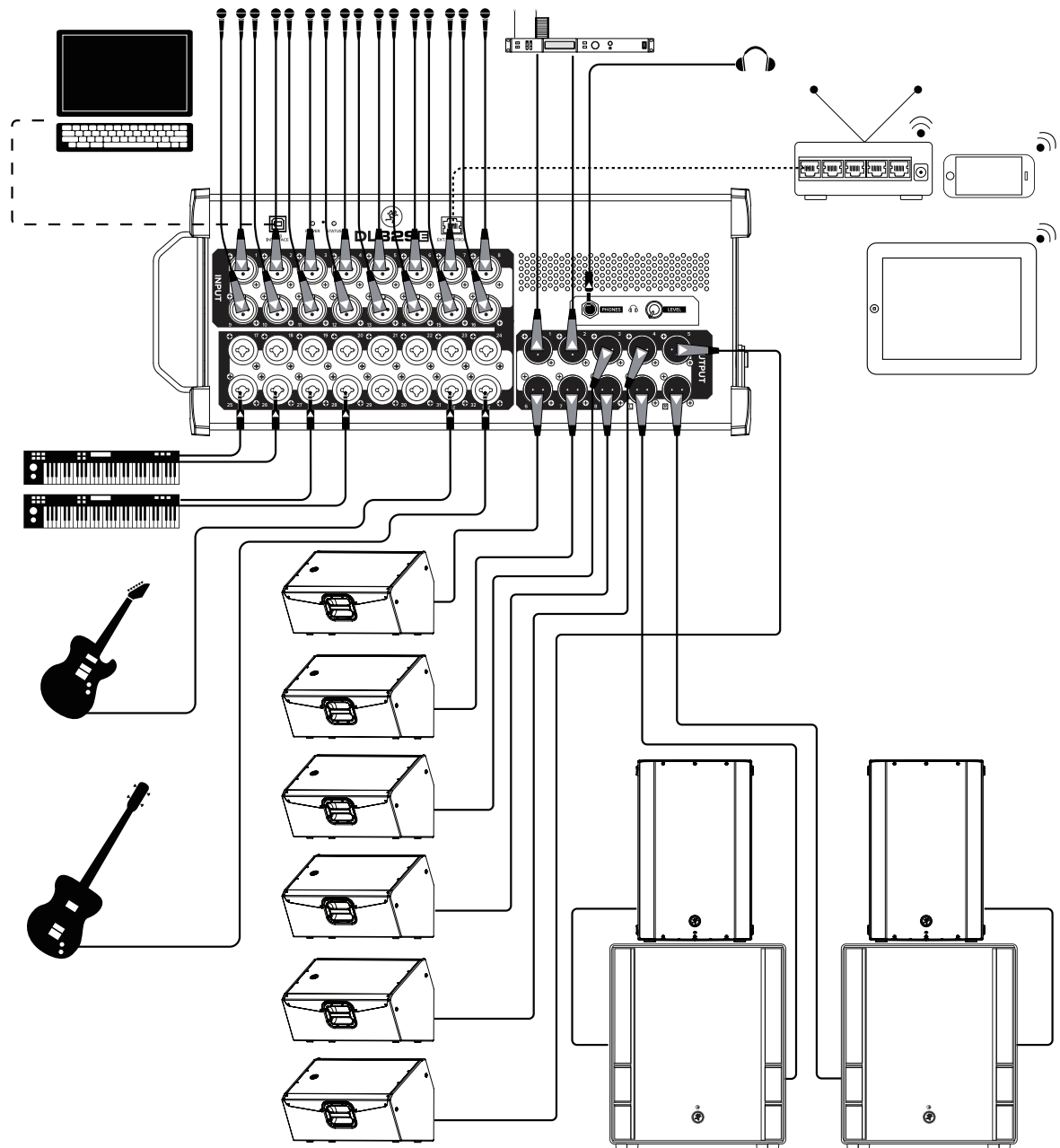
Macユーザー：ドライバーは不要です。

1. すべてのノブを下げます。
2. すべてのスイッチを解除します。
3. 信号ソースをミキサーに接続します：
  - A. マイク入力にマイクを接続します。(必要に応じてファンタム電源をオンにします)
  - B. キーボード、ドラムマシン、スマートフォンなどのラインレベル機器をラインレベル入力に接続します。
4. L/R出力からコードをパワードスピーカー（またはパッシブスピーカーに接続されたアンプ）に接続します。
5. USBケーブルをミキサーのUSBコネクタにしっかりと差し込み、もう一方の端をコンピュータの空いているUSBポートに接続します。
6. ミキサーの電源を入れます。
7. コンピューターの電源を入れます。
8. パワードスピーカー（またはアンプ）の電源を入れます。
9. DL16SEまたはDL32SEを再生／録音のデフォルトデバイスとして設定するには、コンピュータのサウンド設定を開き、DL16SEまたはDL32SEを選択します。
10. DL16SEまたはDL32SEをDAWアプリケーションで使用する場合は、DAWを開いてDAWのサウンド設定に移動し、入力および出力デバイスとしてDL16SEまたはDL32SEを選択します。詳細については、DAWのリファレンスガイドをご参照ください。
11. 入力の音量は通常使用時と同じにしてください。
12. マスターフェーダーをゆっくりと上げて、快適なリスニングレベルに調整します。



iTunes® または他の音楽アプリからの再生は、マスターフェーダーのリターンチャンネルを介して行われます。

## Live Sound: House Engineer



こちらはDL32SEを使用した、よくあるセットアップ例です。

マイクは入力チャンネル1~16に接続されており、ドラムセット、ギター/ベースキャビネット、アコースティックギター、リード/バックボーカル、ホーンセクションなどのマイキングに使用できます。

シンセサイザー2台はチャンネル25-26および27-28に接続されており、さらにギター2本がフォン入力端子を介して入力31および32に接続されています。

それでもまだ追加のマイク用に10個の未使用入力が残っています。

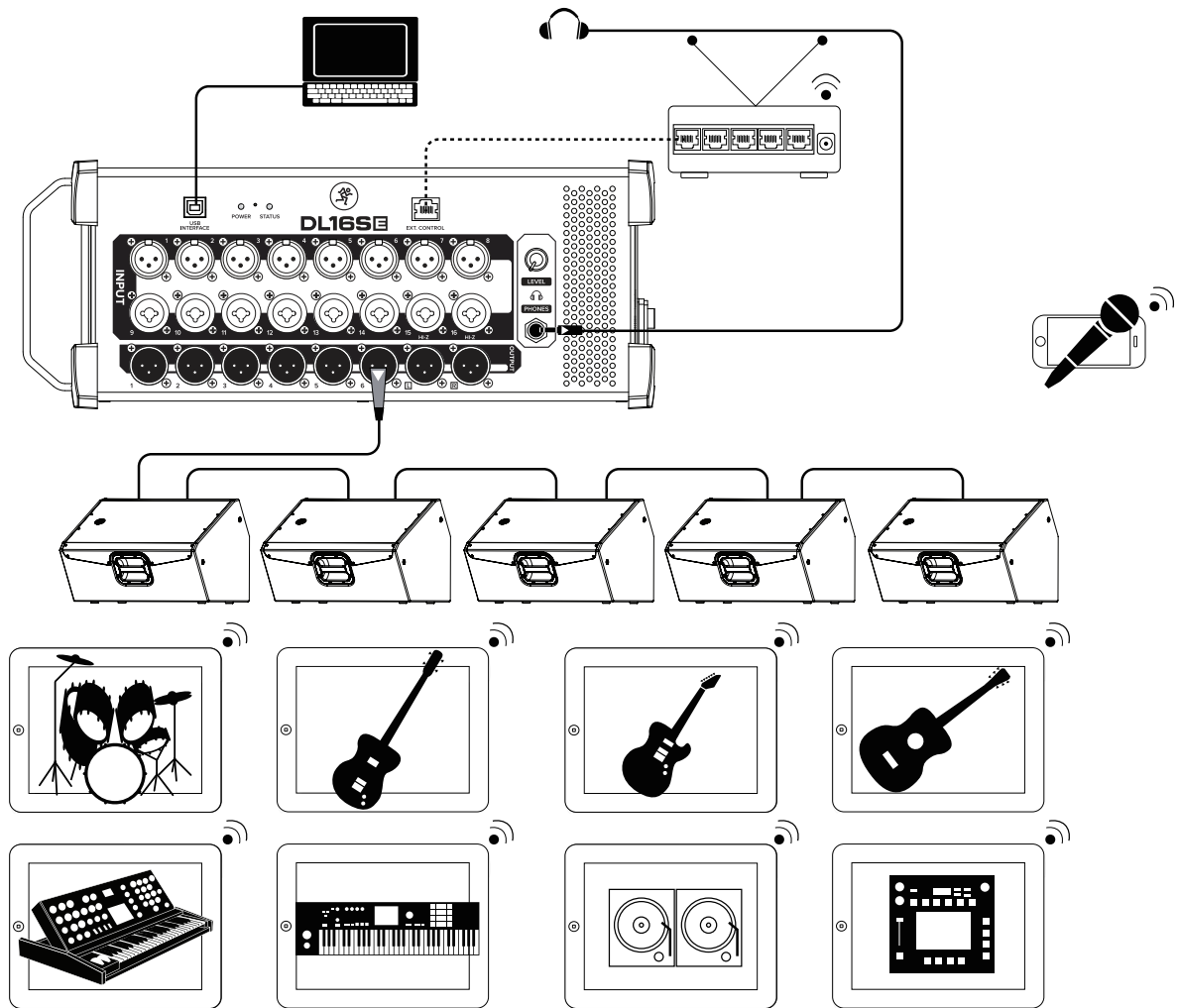
出力9-10はL/Rメインアウト(デフォルト)として割り当てられており、パワードサブウーファーに接続され、そこからパワードラウスピーカーに接続されます。

出力3-8はAUXセンド1-6として割り当てられ、6台のパワードラウスピーカーに送られ、バンド用モニターとして設置されます。

出力1-2はインイヤーマニター用のトランスミッターに送られます。

ハウスエンジニアはL/Rメインミックスを調整し、バンドのライブショーを好みのマルチプラットフォーム機器でマルチトラック録音します。

## Live Sound: Self-Engineered



こちらは、ライブ中に「もっと自分の音を上げて!」と文句を言うミュージシャンたちのためのセッティングです。

各ミュージシャンの楽器、PA、モニターは、通常のライブ環境と同じようにセットアップ接続します。

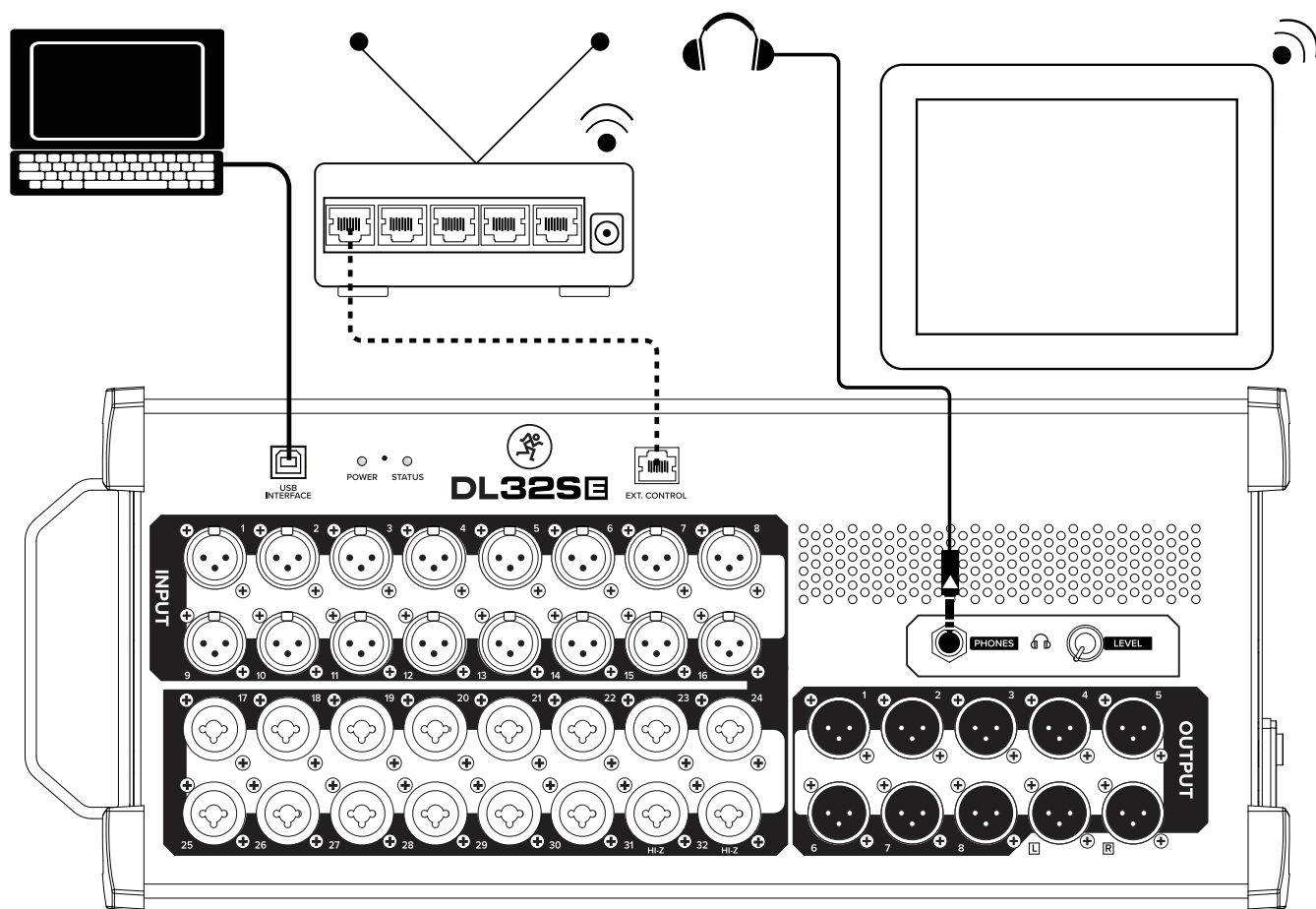
ハウスエンジニアは、好みのマルチプラットフォーム対応デバイスをバーに設置し、LRのメインミックスを調整したり、バンドのライブショーのマルチトラック録音を行ったりします。

DL16SE + DL32SEには最大20台までデバイスを接続可能です。各バンドメンバーは自分の「ステーション」から自分のミックスをコントロールできます。

イラストにあるように、ドラマー、ベーシスト、ボーカリスト、キーボーディスト、DJ、サンプラーの各ミュージシャンがそれぞれデバイスを持っています。

6人のミュージシャン、6台のデバイス、6つ以上の出力（AUXとして設定）。

## Studio Recording



PCをフロントパネルのUSB端子に接続して、最大16イン16アウト (DL16SE) または32イン32アウト (DL32SE) の録音が可能になります。

そして、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すれば、自分の傑作をモニターできます。

最大16×16または32×32チャンネルを録音・再生できます。最高の制作&録音スタイル

# ラックマウント金具の取り付け手順

DL16SEおよびDL32SEミキサーには、1組のラックマウント金具がセットされており、箱を開けるとすぐに見えるようになっています。

これを使用して標準の19インチラックに取り付けられます。

取り付けに必要な工具は、プラスドライバーのみです。

(1) ミキサーの電源を切り、すべてのケーブルを取り外します。ミキサーを前面を上、背面を下にして、柔らかく乾いた平らな場所に置きます。

(2) プラスドライバーを使って、図のように4本のネジ、ワッシャー、コーナーパーツを取り外し、安全な場所に保管してください。今は使いませんが、将来必要になるかもしれません。

(3) 付属の新しいネジを使用して、図のようにラックマウント金具をミキサーの両側に取り付けてください。

ネジは手でしっかりと締めてください。

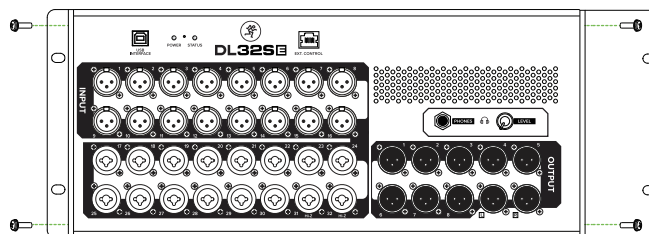
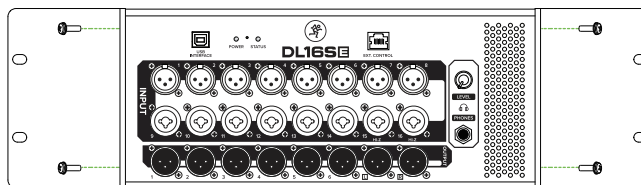
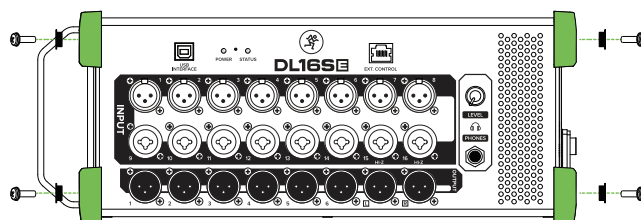
図のとおり、DL16SEのラックマウント金具は左右同じサイズで互換性があります。つまり、どちらのラックマウント金具もミキサーの左右どちら側にも取り付け可能です。

一方、DL32SEのラックマウント金具はサイズが異なります。ミキサーの前面が自分に向いている状態で、左側には「小さい」ラックマウント金具を取り付けてください。「大きい」ラックマウント金具は電源コード用のスペースを確保するため、ミキサーの右側に取り付ける必要があります。

さらに、側面のハンドルも取り外す必要があります。

これにより、ミキサーをラックに取り付けるための十分なスペースが確保されます。プラスドライバーを使って、ハンドルを固定している2本のネジを取り外してください。ネジとハンドルは安全な場所に保管してください。ステップ2で取り外したネジやコーナーパーツと同様、今は使いませんが、将来必要になるかもしれません。

(4) ミキサーをラックに合わせて設置し、4本のラックネジ(付属していません)でしっかりと固定してください。



## 電源およびステータス LED の状態

| POWER LED | STATUS LED | 状態                        |
|-----------|------------|---------------------------|
| 消灯        | 消灯         | 電源オフ                      |
| 点灯        | 遅い点滅       | PC等との接続待機中                |
| 点灯        | 点灯         | 正常に接続中                    |
| 点灯        | 早い点滅       | ミキサーが起動中、またはネットワークを更新中 *1 |
| 遅い点滅      | 点灯         | ミキサーを強制アップデート中            |
| 遅い点滅      | 遅い点滅       | ファームウェアアップデート進行中 *1       |
| 早い点滅      | -          | エラーが発生中 *2                |

\*1 電源を切らないでください。

\*2 ミキサーの電源を切り、30秒待ってから再度電源を入れてください。  
問題が解決しない場合は、販売店または、正規代理店にお問い合わせください。

## トラブルシューティング

以下は、既知の問題、あるいはまだ発見されていない他の問題を修正できる可能性がある、3つの有効な方法です

(1) タブレット、スマートフォン、またはコンピューターを再起動してください。

Master Fader アプリだけを再起動するのではなく、必ず端末自体を完全に電源オフし、再起動してください。

(2) ミキサーを再起動してください。

これは特に、ファームウェアやソフトウェアのアップデート後にミキサーとタブレット／コンピューターの同期が取れていない場合に有効です。

シンプルな再起動が大きな効果を発揮する場合があります。

(3) 外部ルーター（接続している場合）を再起動してください。

インターネット接続に問題がありますか。ルーターの電源を一度抜いてから、再度接続してください。

これにより、接続の問題が解決する可能性があります。

## 電源が入らない

- ・ 電源コードの接続を確認、電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。電源タップ等がオンであることを確認してください。

## 音が出ない、出力がおかしい

- ・ すべての接続は正しく確実ですか。接続されているケーブルが正常に機能し、両端がしっかり差し込まれているか確認してください。
- ・ 問題があると思われるチャンネルと同じ設定で、同じ信号ソースを別のチャンネルに接続して試してみてください。
- ・ 信号ソースの電源は入っていますか。正常に動作していますか（ちゃんと信号を出していますか）

## ノイズが発生する

- ・ アンバランスケーブルを使っていませんか。バランスケーブルに交換して、問題が解消されるか確認してください。
- ・ 入力ゲインを1つずつ下げてみてください。ノイズが消えた場合、その入力または接続されている機器に問題があります。その機器を取り外して、入力ゲインを戻したときにノイズが消えていれば、原因はその機器です。
- ・ マイクにファンタム電源が必要ではありませんか

## インターネットに接続できない

- ・ タブレット、スマートフォン、またはコンピューターは正しい無線ネットワークに接続されていますか。別の無線ネットワークに自動で切り替わっていないか確認してください。
- ・ tools > device画面で、正しいミキサーを選択しましたか
- ・ Master Fader アプリおよび DL シリーズのファームウェアは最新ですか。Google Play、App Store、または Mackie のウェブサイトでアップデートを確認してください。
- ・ イーサネットケーブルは正しいポートに接続しましたか。必ず LAN ポートに接続し、WAN ポートには接続しないでください。
- ・ ルーターをミキサーより先に接続して電源を入れましたか。
- ・ Master Fader アプリを強制終了してみてください。
- ・ 別のイーサネットケーブルを試してください。
- ・ 別のルーターを試してみてください。

## Appendix B : Technical Information

---

### Specifications

#### General Digital

---

Sample Rate: ..... 48 kHz

A/D/A Bit Depth: ..... 24-bit

System Latency

Analog Input > Main Bus > Analog Output: ..... 1.5 ms

0 dBFS Reference: ..... +22 dBu

#### Frequency Response

---

XLR inputs and outputs: .....  $\pm 0$ , -1 dB, 20 Hz to 20 kHz

1/4" inputs: .....  $\pm 0$ , -3 dB, 20 Hz to 20 kHz

#### Distortion

---

THD+N, XLR mic input to XLR output, unity gain (1 kHz, +21 dBu signal; 30 kHz bandwidth): ..... <0.005%

#### Noise / Dynamic Range / Signal-to-Noise Ratio

---

EIN (150  $\Omega$  termination): ..... -127 dBu, A-Weighted

Crosstalk

Analog XLR adjacent inputs: ..... <-105 dB @ 1 kHz (unity gain)

<-65 dB @ 1 kHz (max gain)

Analog XLR adjacent outputs: ..... <-95 dB @ 1 kHz

Signal-to-Noise Ratio (ref +4 dBu, 1 kHz. Mic Input > Main Bus > XLR Output, unity gain): ..... >92 dB, un-weighted

Output Noise, XLR output (DSP muted): ..... <-90 dBu RMS

Dynamic Range

Mic Input > Main Bus > XLR Output, unity gain: ..... >110 dB, A-Weighted

XLR Mic Input to USB Output: ..... >113 dB, A-Weighted

XLR Output from DSP (Oscillator): ..... >113 dB, A-Weighted

CMRR – XLR Mic Input (ref +20 dBu, +45 dB Gain): ..... >75 dB @1 kHz

# Specifications Continued...

## Analog Inputs

---

Connectors:.....1-8: XLR Balanced, 9-16: Combo XLR / TRS Bal-Unbal  
(plus Hi-Z via unbalanced instrument cable on inputs 15-16) [DLI6SE]  
1-16: XLR Balanced, 17-32: Combo XLR / TRS Bal-Unbal  
(plus Hi-Z via unbalanced instrument cable on inputs 31-32) [DL32SE]

XLR Mic Pre:..... Onyx+

Input Impedance:  
DLI6SE: ..... XLR, channels 1-16: 3 k $\Omega$ , balanced  
1/4" Line, channels 9-14: 30 k $\Omega$ , balanced  
1/4" Hi-Z, channels 15-16: 1 M $\Omega$ , unbalanced  
DL32SE: ..... XLR, channels 1-32: 3 k $\Omega$ , balanced  
1/4" TRS Line, channels 15-30: 30 k $\Omega$ , balanced  
1/4" TS Hi-Z, channels 31-32: 1 M $\Omega$ , unbalanced

Max Input Level:..... XLR: +22 dBu  
1/4": +30 dBu

48V Phantom Power (XLR): ..... 48 VDC nominal voltage, unloaded  
14 mA maximum current supplied to any single input  
5mA minimum current supplied to all inputs simultaneously  
Digital on/off control for each individual input

## Analog Outputs

---

Connectors:..... XLR Balanced  
Output Impedance:..... 300  $\Omega$   
Max Output Level: .....+22 dBu

## Analog Headphone Out

---

Connector:.....1/4" TRS Stereo  
Max Output Level: .....+20 dBu into 600  $\Omega$ , each channel  
+22 dBu max into 100 k $\Omega$ , each channel

## Specifications Continued...

## USB

Connection:.....USB 2.0 High Speed (as a device)  
Connector:.....USB-B  
Supported MS Windows [Driver installation required]: ..... Windows 10 or Windows 11  
Supported Mac OS [Audio Class 2.0 Compliant, no driver required]: .....macOS 10.15 or higher required  
Audio: ..... 16 in / 16 out, 48 kHz, 16/24-bit [DLI6SE]  
..... 32 in / 32 out, 48 kHz, 16/24-bit [DL32SE]

## Networking

Connection:..... 100 Mb Ethernet

Control: .....Complete

Simultaneous Control:..... 20 Devices

Antenna: ..... External, SMA Connector, 50  $\Omega$

Access Point, Number of Clients: ..... Max. 20 (Wired or Wireless)

IEEE 802.11 b/g Standard: ..... 2.4 GHz

WLAN Channels:..... 1 - 11 (with auto-channel select option)

Access Point Security:..... WPA2

## Devices and OSs

## Android and iOS

System Requirements: ..... • Android: v7.0 or higher required  
(requires Google Play Store access to install)  
• iOS: v13.0 or higher required

Control Application: ..... Master Fader App

## Specifications Continued...

### DSP

---

#### **DL16SE**

16 input channels with 4-band PEQ + HPF, gate, compression and RTA/Spectrograph

16 stereo-linkable input channels

13 output busses with 4-band PEQ + HPF/LPF, 31-band GEQ, comp/limiter, alignment delay and RTA/Spectrograph

6 stereo-linkable aux sends

6 stereo-linkable subgroups

Main L/R bus

6 VCAs and 6 mute groups

4 stereo FX processors featuring great built-in FX like reverbs, delays, choruses, flangers,  
and many more with dedicated sends and returns

Full I/O routing with A/B sources per channel

Assignable oscillator including pink/white noise and sine waves

Modern and Vintage options for comp/gate and EQ

#### **DL32SE**

32 input channels with 4-band PEQ + HPF, gate, compression and RTA/Spectrograph

32 stereo-linkable input channels

15 output busses with 4-band PEQ + HPF/LPF, 31-band GEQ, comp/limiter, alignment delay and RTA/Spectrograph

8 stereo-linkable aux sends

6 stereo-linkable subgroups

Main L/R bus

6 VCAs and 6 mute groups

4 stereo FX processors featuring great built-in FX like reverbs, delays, choruses, flangers,  
and many more with dedicated sends and returns

Full I/O routing with A/B sources per channel

Assignable oscillator including pink/white noise and sine waves

Modern and Vintage options for comp/gate and EQ

Specifications Continued...

Power

|                                                       |                                                 |
|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| Power Requirements:                                   | 100 VAC – 240 VAC, 50 – 60 Hz, Universal Supply |
| Line Cord:                                            | User-replaceable IEC                            |
| Power Consumption:                                    | 40 W [DLI6SE]<br>60 W [DL32SE]                  |
| Operating Temperature [extended ambient temperature]: | 32 – 104 °F / 0 – 40 °C                         |

Dimensions

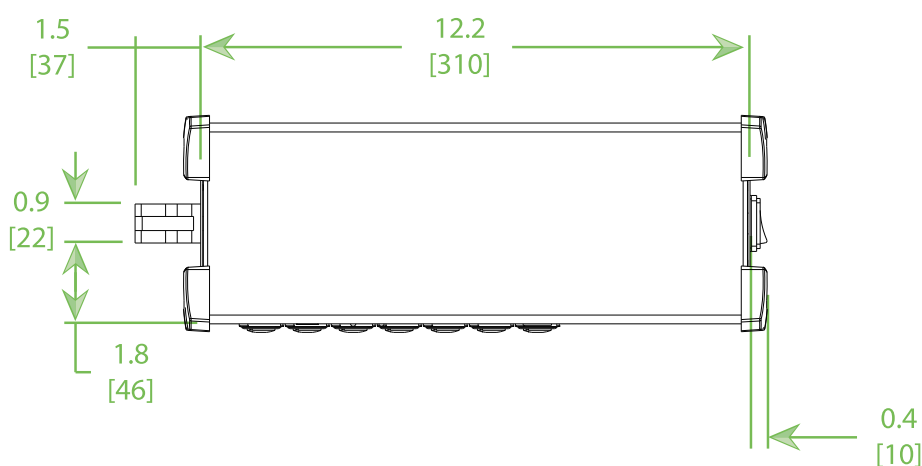
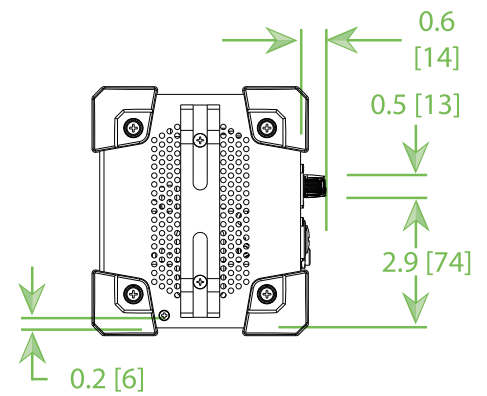
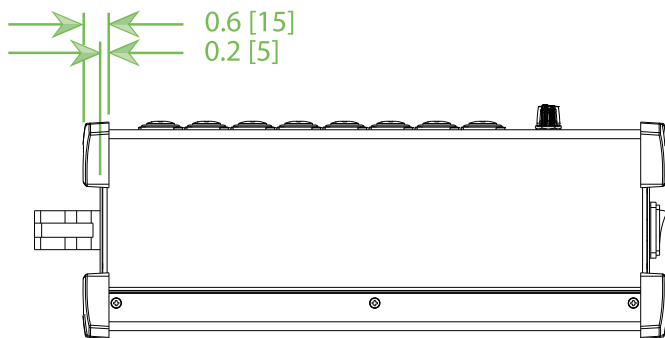
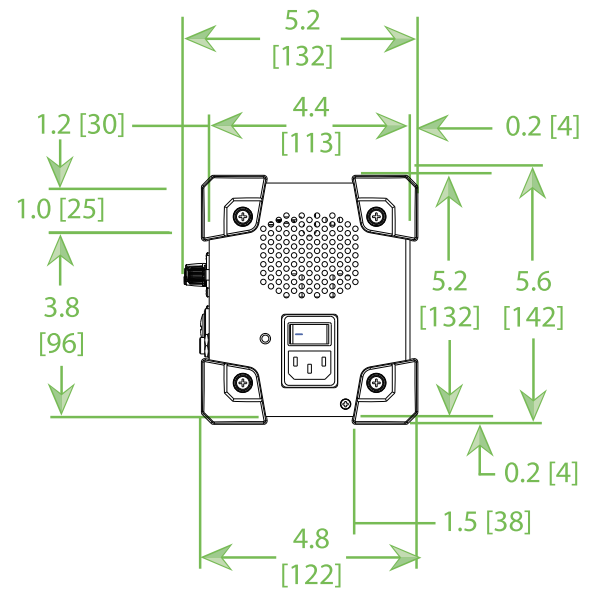
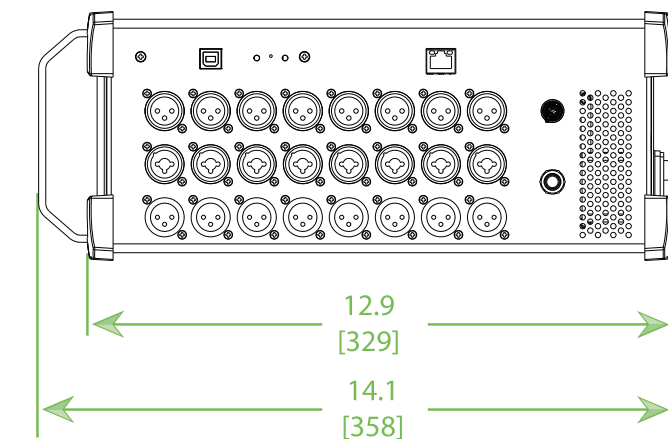
DLI6SE

|         |                  |
|---------|------------------|
| Height: | 5.6 in / 142 mm  |
| Width:  | 14.1 in / 358 mm |
| Depth:  | 5.2 in / 132 mm  |
| Weight: | 6.2 lb / 2.8 kg  |
| Rack:   | 3U Rack Spaces   |

DL32SE

|         |                  |
|---------|------------------|
| Height: | 7.3 in / 185 mm  |
| Width:  | 16.3 in / 414 mm |
| Depth:  | 5.2 in / 132 mm  |
| Weight: | 8.8 lb / 4.0 kg  |
| Rack:   | 4U Rack Spaces   |

## DLI6SE Dimensions



DL32SE Dimensions

